

会 議 議 事 録

			記 録 者	主幹 染谷 優一	
供 覧	部長	課長	補佐	係長	課員
件 名	平成29年度第1回龍ヶ崎市総合教育会議				
日 時	平成29年8月23日（水） 午後1時30分から午後2時35分				
場 所	市役所5階 第1委員会室				
主 催	中山一生市長（事務局：企画課地域戦略グループ）				
出席者	中山市長、平塚教育長、斎藤教育長職務代理者、高橋容子委員、大野委員、高橋伸子委員 川村副市長、龍崎総合政策部長、森田企画課長、大貫企画課長補佐、記録者松尾教育部長、飯田教育総務課長、重田教育総務課長補佐、近野教育総務課係長、大野生涯学習課長、小林指導課長、北澤スポーツ・国体推進課長、神永給食センター所長、辻井教育センター所長				
欠席者	なし				
傍 聴	1人				
議 題	1 開 会 2 市長あいさつ 3 議 題 （1）龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針（案）について 4 その他 5 閉 会				
情報公開	<input checked="" type="radio"/> 公 開 <input type="radio"/> 部分公開 <input type="radio"/> 非 公 開	非公開（一部公開を含む）とする理由 公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）		（龍ヶ崎市情報公開条例9条 号 該当） 年 月 日	

事務局	<p>それでは定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回龍ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>なお、当会議におきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律、第1条の4第6項に原則公開で行うと明記されていることから、本日の会議は公開で行いたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日は、傍聴の方がいらっしゃいます。傍聴におかれましては、静粛にお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、中山市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
中山市長	<p>改めまして、皆さんこんにちは。</p> <p>平成29年度第1回龍ヶ崎市総合教育会議ということで、教育委員の皆様におかれましては、ご多用のところご出席賜りまして誠にありがとうございます。今年度から教育委員会の委員として、新たに高橋伸子委員をお迎えしてから初めての総合教育会議となります。</p> <p>高橋委員におかれましては、様々なご経験を生かしたなかで、龍ヶ崎市の子ども達の教育についての様々なご助言をいただくことを楽しみにしておりますので、よろしくお願い申し上げます。教育委員の皆様方におかれましても、引き続き龍ヶ崎市政運営のご理解ご協力をお願い申し上げます。</p> <p>さて、本日の議題ですが、次第にもありますように龍ヶ崎の新しい学校づくりに関する基本方針（案）についてでございます。</p> <p>この総合教育会議では、昨年度まで教育プランについてご協議をいただきしてきたところですが、教育プランの内容を実施するための取組の一つとして、今回議題となっている基本方針（案）を策定しようと考えているところです。</p> <p>この後、担当から詳細について説明いたしますが、この基本方針（案）について、教育委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、この総合教育会議等を通しまして、龍ヶ崎市の教育環境の充実が図られることを心から期待して、私からの挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、総合教育会議の主催者である中山市長にお願いしたいと思います。中山市長、よろしくお願いいたします。</p>
中山市長	<p>それでは着座のままでございますが、総合教育会議の議事進行のお役目を務めさせていただきます。慎重審議の上で皆さん議事進行のご協力をお願い申し上げます。本日の議題ですが、先ほど申し上げましたように龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針（案）について、皆様にご協議をいただくこととなっております。また、本日の会議時間につきましては、午後3時の終了を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議題の龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針（案）について担当から説明をお願いします。</p>
教育総務課	<p>【資料に基づき説明】</p>
中山市長	<p>ただいま、龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針（案）についての説明がございました。今の説明について何かございましたら、この場でお願いいたします。</p>

大野委員	<p>基本的な部分ですが、昨年、龍ヶ崎市教育プランを策定した中で、今回新しい学校づくり基本方針の目指す子ども像ということについて、教育プランと比較するとこちらの基本方針が若干違っている感じがいたしますが、この点について説明をお願いします。</p>
教育総務課	<p>基本方針案の目指す子ども像と、教育プランの子ども像とが若干違っているということですが、大まかにご説明いたしますと、教育プランの方では、義務教育の充実の基本方針におきまして、一人一人の夢や希望を育み生きる力が身につく教育の推進としております。</p> <p>そこからきまして、夢を持ってほしいというところと、生きる力を身につけてほしいという事で、その部分を共通のものとしております。大きい目標としては、教育プランの方を上位としておりますが、その中での学習面に重点を置いて、特にその点を強調したいということで設定しました。</p>
大野委員	<p>同じような意味だと思いますが、私としては全く同じでもいいのかなと感じました。</p>
中山市長	<p>「自らはぐくむ龍の子」というのは、主体的という意味での自らというのを敢えて入れたのですか。</p>
教育総務課	<p>おっしゃるとおりです。</p>
中山市長	<p>そのような意味が込められているということでございます。</p>
高橋(伸)委員	<p>新しい学校づくり基本方針のイメージ図について教えてほしいのですが、一番下の記載部分で中学校区が龍の子人づくり学習カリキュラムと書いてある箇所がいくつも並列されていますが、この意味について教えてください。</p>
教育総務課	<p>イメージ図の下につきましては、現在の龍ヶ崎市では中学校が6校であることから、記載したわけですが、龍の子人づくり学習では基本的なカリキュラムの考え方を示していることに基づきまして、各中学校区で独自の学習現場を作るという意味で、このような基本方針にぶら下がって、各中学校区がそれぞれの特色を出した学習プログラムを作るというのをイメージ図にしております。基本的な部分だけは、この基本方針で示していますが、それを基に中学校区ごとに実施していくというイメージです。</p>
中山市長	<p>他にございませんか。</p>
高橋(容)委員	<p>私も同じくこのイメージ図について、とても違和感を持っていたのですが、この上下に書いてある部分で同じ学校区名が、各々記載されていれば分かりませんが、同じ内容を6校繰り返してこの幅を使う意味はあまりないのかなと思います。各学校区に制定されることを上に記載するとか、もっとこの内容からすると、この中に入れたい言葉があるのではないかなと思います。</p> <p>明らかにこのぶら下がり、この基本方針を基に説明してはしましたが、これの下に基本方針が来る訳ではなくて、このカリキュラム自体が、この中身になる意味だと思いますので、もう少し分かりやすい書き方があるのではないかなと思います。「自らはぐくむ龍の子」の子ども像ですが、逆に自ら育むということ、スタート時点から既にいいというのがどうしても漂うので、育むことができるようにする等として、もっと教育の力が働いた結果、このように育むこと</p>

<p>中山市長</p>	<p>が出来るといふことにしないといけないと思います。何か勝手に成長していつてくれたらいいなみたいなニュアンスだと少し自ら育むという言葉が人によって解釈が変わってきてしまうかなと思いますので、もう少し良い表現を探していただければと思います。</p>
<p>高橋(容)委員</p>	<p>他にございますか。</p> <p>説明を聞いたら、小学校・中学校の背景が残る、入学式、卒業式が残るというのが分かるのですが、イメージ図の中には、そういうものが全く無いので、これだけを見た方は、小学校も中学校も無くなって小中一貫教育9年間で4・3・2になるんだと解釈されると思うので、どこかに小中学校の枠を残した中で4・3・2を目指しますというのをに入れていただける方が分かりやすいかなと思います。</p>
<p>教育総務課</p>	<p>細かいイメージ図は、4・3・2制の観点からではなく、龍の子人づくり学習を中心にして作ったものでございます。本文にある4・3・2制については、3ページ一番下にある注釈に記載させていただきました。確かに、小中一貫というのは9年間になるのかという一般的なイメージが持たれてしまう恐れもあることから、本文には注釈を入れましたが、イメージ図の方に記載するかどうかは検討させていただきます。</p> <p>4・3・2制について先ほど説明しましたが、学校教育法に基づく義務教育としての小中一貫教育では、通常の6年・3年制を残して、学習カリキュラムの分だけを9年間通したものにしていきたいと思いますという事でございます。</p> <p>確かに高橋委員がおっしゃるように、このイメージ図について誤解を招く可能性がありますので、どのようにするか検討したいと思います。</p>
<p>中山市長</p>	<p>先ほどありました目指す子ども像の表現も含めて検討していただければと思います。他にございますか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>施設一体型を目指すことについては、元々、私自身賛成だったのですが、実際に可能性としてどこまでの構想を持っているのか、現時点で分かる範囲で教えていただければと思います。</p>
<p>松尾教育部長</p>	<p>現時点では、具体的にお示しできるまでには至ってはいないですが、前回もお話があったかと思いますが、小中一貫教育をしていく上で、1番の課題は、小中学校の教員の交流の問題であったり、あるいは児童生徒の交流の問題であったりと物理的な問題が非常に大きいということですので、できれば施設一体型が望ましいというように考えております。一方で小中一貫教育だけではなく、適正規模・適正配置の問題等もやはり同時に考えていかないとこの問題は答えが出てこないと思います。併せて市全体の事業間調整、財源調整という問題もございますので、そういったものをトータルで考えていく必要があるかと思っております。しかも、これをやっていく中では、同じ小学校から同じ中学校に行くという事がやはり望まれますので、学区の再編成ということも考えなければならぬと思います。そうなれば、やはり地域の皆さんと情報共有をして、必要性をきちんと認識した上で、みんなと同じ方向に向かっていくというものを急務で作っていかねばならない課題があるわけでございます。そういった課題を踏まえて進めていかねばならないということで考えております。一朝一夕にはいかないだろうとは思っておりますが、立ち止まる事なく前へ進めていきたいということを現時点では思っております。</p>

大野委員	<p>ありがとうございます。私も都市計画マスタープラン等を考慮すると、教育の分野だけではなく、龍ヶ崎市全体の生活感が変わってしまうというような状況もあるかと思っておりますので、一朝一夕という話ではないかとは思いますが、これから推進していただければと思います。</p>
中山市長	<p>現実問題として、小規模化している中学校が存在していることもございますので、現実の方がやはり進んでしまっているというところがありますので、一朝一夕にはいかないと言いながらも、急ぐべきところは急ぐ必要があるのかなと思います。あとはやはり将来的に時代が変わるにつれて同じような兆候が生まれるということが、少子化の時代であることから想定もできますので、その辺の時間をかけながら検討をしていく必要があるかと思っております。</p> <p>いずれにしても今、大野委員がおっしゃったように龍ヶ崎のまちづくりとも深く関わってくると思っておりますので、学校を中心としたまちづくりというものもしっかりとイメージをしながら進めていかなければならないという思いを持っております。他にございますか。</p>
齋藤教育長 職務代理者	<p>施設一体型を目指しますということですが、はっきり言いきっているのが少し気になります。龍の子人づくり学習カリキュラムは、平成32年度から全中学校区において実施することを目指しますということをはっきり明記しているので、施設一体型はいつできるのかと聞かれてしまう気がして、少し心配しております。これは意見でございます。それ以外で気になったところは、一つは龍の子人づくり学習における子どもたちの社会参画力の育成ということで、確かな学力、豊かな心、健やかな体という3本柱が意図的に記載していることだろうとは思いますが、しかしながら、社会参画力という育成がこの3本柱で到達してしまっているのかなという心配をしております。私たちの場合、人間性の教育の観点から知・徳・体なんてことも言ってきたのですが、それがそのまま置き換わっていることが社会参画力=3本柱という表現の仕方でいいのかなどかというのが気になります。確かにそれぞれ学力の問題、心の問題、体の問題は当然関わってはきますが、果たしてどうなのかなという気がいたします。</p> <p>項目として出てきておりますので、言葉自体がどうなのかという不安な面を読み取った部分があります。具体的な話ですが、龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針（案）の1ページの中段ほどの箇所、「中一ギャップ」、子どもたちが直面することにより、授業がよく分からない、不安を感じたり、自己有用感ということが並列されておりますが、一番先に不安ということが言葉として先に来るべきではないかなと思います。なぜ最初に授業がよく分からなくなるという言葉が来たのか分かりませんが、子どもたちの不安は、授業が分からないということは、不安があったうえでの授業が分からないという何かしらの精神的な部分で不安な思いが生じて授業が上手くいかないということからではないかと思っております。表記の順番として適切なのかなどか気になりました。</p> <p>その下の「小中連携」の話がでてきますが、平成15年度から各中学校区において「小中連携」を実施してきたとありますが、この開始年度は間違いありませんか。</p> <p>その他の2ページにある「2 龍ヶ崎市の新しい学校づくりのあり方について」の「(2) 育む資質・能力」についてですが、資質という部分で学びに向かう力という表現の仕方はどうなのかなという気がいたします。1つ目の項目として多様化する社会に対応できる能力というのは、態度や能力ではないかと思ったり、3つ目の社会的職業的自立を図れる能力という表現もどうなのかなという気がいたしました。</p> <p>以上、少し文章等で気になったところを申し上げました。</p>

教育総務課	ご意見等があった箇所については、今後精査して検討させていただきます。加えて、小中連携について平成15年度から開始したのが正しいかという点についても確認させていただきます。
中山市長	他にございますか。
平塚教育長	6・3制という制度で、小・中学校の卒業を迎えるという観点でいえば、一体型というのは、6・3制の方が分かりやすいのですが、その中で学習カリキュラムを4・3・2制にする、この部分がどうしても分かりにくいのではないだろうかと思います。その説明についてもっと分かりやすくするために、色々な授業のスタイルだとか、教員の配置だとか、学び方とか、家庭学習とかそういった部分の重点化を図る意味で、4・3・2制を取り入れていったという経緯でこういったものが作られたのですが、委員の皆様におかれましては、この部分については、理解しやすいかどうかご意見をいただければありがたいと思います。
中山市長	今、教育長からお話がありましたが、委員の皆様からご意見等ありますか。
高橋(容)委員	先ほどの繰り返しになりますが、結局、小中一貫という言葉が今の日本では小学校、中学校を一緒にするという言葉になりつつあるので、龍の子人づくり学習カリキュラムの下に小中一貫教育と書かれると、もうそこで一緒になるんだというイメージが出てしまうと思います。そこに4・3・2制は、龍の子人づくり学習カリキュラム上での取組を表すものと記載してもなかなか目に入りにくいのかなと思います。できれば、龍ヶ崎市版小中一貫教育という言葉置き換えるものとして、例えば龍ヶ崎市版教育カリキュラムみたいにして、その後続けて4・3・2制であるというように続ければ読み取りやすいかなと思います。
中山市長	はい、ありがとうございます。先ほどもありましたが、施設一体型を目指すという方向がありましたが、当面として施設分離型で行っていく場合と一体型になってからでは、またニュアンスが変わってくるのかなと思います。一体型であれば4・3・2制というのが意識的に落ち着く感じがいたします。 分離型の場合は、中期3年というのは、場所が違うというのがありますので、そういう点がイメージ的に一体型の方がいいのかなという気がいたしました。 案外、子どもたちの方は柔軟に受け入れて対応できるのかなと思います。確かに高橋委員からあったように大人がこういう言葉によって惑わされてしまうのかなという気もいたします。 このような表現の仕方は是非検討していただければと思います。他にございますか。
大野委員	龍の子人づくり学習カリキュラムの中で、小学校5・6年生だけが一部教科担任制を取るということだけでよろしいでしょうか。何か他にあるのでしょうか。
中山市長	はい、この点についてはいかがですか。
指導課	もちろん、今の教科担任制を取るというのも選択肢の一つですが、そのカリキュラムの中身自体、要するに図の中の全体イメージの中であった様々な教科、それから表記等の接続部分を4・3・2制で、例えば4は基礎・基本、3のところについては、友達と共同して学習するとか、そういう活動を重視していきま

	<p>しょうという意味です。後期2の部分については、その発展的な学習を様々な教科で重視していきましょうという意味です。</p> <p>そういうことをしっかり横断的に配置したカリキュラムを作っていく、あまり外には見えないんですが、その中身の面でそういうカリキュラムを作っていくということです。よろしいでしょうか。</p>
大野委員	イメージは分かりました。
中山市長	はい、他にございますか。
高橋(伸)委員	<p>この中期の捉え方ですが、今までのように、小学校卒業して中学校という接続の仕方だといきなり一段階上がるようなイメージを抱くことによってギャップが生じるため、それを緩やかにして中2、中3の学習の中身を目標にして、すごく高く見えるハードルを徐々に登っていくというイメージの捉え方でいいのでしょうか。</p> <p>そのような説明があると、この基本方針を策定する意味があるなということを理解されるのではないのでしょうか。きちんと説明することによって、この本文を読んだ人が、メリットの面や様々な問題を把握していることで、様々な事柄が改善できるのだと理解できると思います。子ども達にとっては、この方が十分適応できるとか勉強に馴染むとかという不安も解消できるんだと目に見えるような説明の部分があるとさらに分かりやすくなるのではないかと思います。</p>
中山市長	はい。お願いします
松尾教育部長	<p>ただいまのご意見の通りだと思っております。</p> <p>小学校5年生ぐらいから色々な問題が顕在化していると思います。それでいよいよ中学生になると、中一ギャップと言われるようなものが現に社会的にあると、そういったものにどうやって対応していったらいいのかということが高橋委員がおっしゃるように上手に接続を図っていくことだと思います。</p> <p>そういった意味では、小学校5年生から中学校1年生ぐらいにかけて接続を上手にしていきたいなという事が4・3・2制の大きな柱になっていくのかなと思っております。</p> <p>特に小学校から見ると、これまでの学級担任制に留まらず、一部の教科では、教科担任制を入れることによって、中学校では既に教科担任になっている訳ですが、小学校の段階からなるべくそういう形でやっていきたいなと思っております。一方で例えば中学生でも小学校の時のつまずきについては、逆に小学校の先生と中学校の先生が連携をしていくことによって、つまずきの解消にもなっていくのかなということも考えられます。</p> <p>従いまして、接続を上手にしていくということで基礎的な学力の定着にも繋がるのではないかなと思っております。主に2つの大きな効果について期待をしているところでございます。</p>
高橋(伸)委員	<p>ありがとうございます。すごく良く分かりました。この新しい学校づくり基本方針のイメージ図におけるステップアップの部分では、このような図になっておりますが、例えば中学校で、小学校のつまずきの部分を見られるという事になると、なんか緩やかな螺旋的に戻る事も出来るし、ステップアップも出来るようなイメージを持っております。</p> <p>イメージ図にあるステップアップは右側にあって、左側にリレーションシップ=つながりという部分について、今は中学校区しか記載されておりましたが、</p>

<p>中山市長</p>	<p>小学校の先生とも繋がれるというのも別々にありますので、今の話を上手く何か入れ込めるともっと具体性が出てくるのではないかと思います。</p> <p>よろしいですか。表現の仕方をうまく伝えられるようにしていただければと思います。よろしくお願いします。他にございますか。</p>
<p>平塚教育長</p>	<p>やはりこの学習カリキュラムの中期の部分が非常に話題になると思います。何で小学校6年と中学校1年生がリレーション出来るかということですが、これは、私たちの現場経験で体験したケースで、龍ヶ崎市内で、ある小学校6年生が鎌倉校外学習に行ったのに拘わらず、中学校でもまた鎌倉に行っているということがありました。担任の先生に聞くと、小学校の時にどこへ校外学習に行ったかを把握していない、小学校で牛久沼の総合的な学習を行っても中学校でもまた同じ学習を行っているということが非常に無駄であると思います。そこで小学校6年間でどのようなことを学習して、どんな授業を受けてきたのかを中学校1年の担当の先生が把握していれば、非常にスムーズに学ぶことができるだろうと思います。いわゆる体育の指導の集団行動の仕方も小学校と中学校の同じ学校区内で同じように実施していれば、基本項目の練習に費やす時間が少なくなるだろうと思います。</p> <p>理科の実験のルールなどもそのように統一化していれば、すぐに授業が出来るだろうと思います。私はやはりそこで、中期3年間の先生方の連携、リレーションが非常に大切であると思います。そこに学習の仕方とか学び方にルールがあって、そのルールのギャップがいわゆる「中1ギャップ」で、中学校に進学するところというやり方では通用しないぞと先生に脅されているような子どもたちがいたり、そこに新しい学習で英語という教科が入ってきます。</p> <p>現在においては、英語はすでに小学校で学びますので、今まで以上に中期の授業を資質は違えども、この中身の部分で勉強するという意味で、やはり中期3年間という位置付けがいかに重要であるということを一一般の方々、保護者の方に知っていただくのが、大きなポイントかなと思ひまして先ほどの質問をさせて頂きました。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
<p>中山市長</p>	<p>ありがとうございます。まだ時間はございますので、教育長の話を含めて何かございますか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>今の話を聞いていくと、特に中期3年間の子どもの携わる先生は、非常に重要な役割であると感じました。活躍できる先生もいる反面、活躍が難しい先生もいるのかなと思います。</p> <p>そういった中で、教員の資格の問題であるとか、こういったものも統一化していくという構想のようなものはありますか。</p>
<p>平塚教育長</p>	<p>中期では教科担任制も積極的に導入する、例えば社会専門の先生が他の学校でも社会の授業を教える、これは先生方の負担軽減にもなるかと思ひます。ただ、どの学校にもそういう専門教科を有する先生は、みんな揃っていれば問題無いですが、残念ながら、なかなかそういう先生の人事による配置が難しいというのが現状でございます。今後もこういった教育における人づくり学習を進めるうえで、専門性を備えた指導力のある先生を、どの学校にも効果的に配置するというのは、やはり大きな人事上の課題かなという認識しております。</p> <p>あと、理科の免許はなくても理科の好きな先生というのは、結構いらっしゃいます。そういう先生は、理科の免許は取得しなくても理科作品展の指導等、非常に力を発揮しております。そういう先生が活躍できる、そして自分の趣味</p>

<p>中山市長</p>	<p>や特技を伸ばせるような研修を教育委員会で率先し、タイムリーにやっていく必要はあるだろうと思います。</p> <p>したがって、この学習を進めるにあたっては、人事問題や研修の機会の提供については、併せて計画の再構築をしていく必要があるかなと思います。</p>
<p>高橋(容)委員</p>	<p>はい他にございますか。</p> <p>中期の取扱いですが、中期3年で中学校の中で学習カリキュラム上、良いというのはわかるのですが、実際は中学校入学して1年生は中学校の中で学習カリキュラムを行っていく、その学校生活を想像した時に逆に中2中3くらいで、ある意味見えない壁が出来るできるのが心配です。仕方のないことですが、中学校のまとまりで3年間で上手くやっついていかないといけないところもあると思います。</p> <p>もし可能であれば学区にもよると思うのですが、中学校1年生が学期の中で何日かでも自分の小学校に行き、そこで授業を受けるというような機会ができれば、先生方の移動の部分が少なくなりますし、中学校1年生も自分たちは、中期の中の最上級生で下に小学校5、6年生がいるのだという認識を持てるのかなと思います。切り離されて、ずっと中学校にいて中期の最後といわれるのも少し無理があるのかなと思います。もし可能であればご検討いただければと思います。</p>
<p>平塚教育長</p>	<p>ありがとうございます。すばらしい発想だと思います。やはり子どもの交流というのは、この計画の中では絶対避けて通れない部分だと思います。先生方の交流、それを理解する地域の方々の交流、将来的には一括りですので、こういった9カ年間の計画の中で、やがては地域のなかで積極的に活動し、地域に貢献できるような資質や醍醐味のある生徒を育てられればと思います。それが卒業してからいきなり地域で活躍しなさいというのは、やはり非常に無責任な教育ではないかと思います。その基盤となるものについては、小中一貫教育のなかで育てられればと思います。初期、中期、後期の部分でそれぞれ期待できるといったこともあるかと思いますが、そういった部分を学習カリキュラムの中に反映させていければと考えております。</p>
<p>中山市長</p> <p>齋藤教育長 職務代理者</p>	<p>他にございますか。</p> <p>学習カリキュラム、それから中期の部分が曖昧のところがありますが、この中に例示ではないですが、今まではこうだったけれど、こういう形の学習カリキュラムを組んでいきたい、具体的にはこんなものというような表現があると思います。そのためには、指導はどうして行くのかという事が、少し例示の形で出てくると中期の良さが出てくると思いますし、後期の部分もこういう接続だから任せられるんですよということで、語りかけていくのには例示の部分が良かった方がいいのかなと思います。基本的に中一ギャップというのは、現状のいわゆる物的環境と人的環境が変わったために起きているのだと思います。</p> <p>何か急激に変わったわけではなくて、人が変わった、場所が変わった、仲間が変わった、そのために自分の中で不安が生じたりすることで、何かしらの学習の停滞に繋がっていると思います。それを施設一体型でなければ、今後ともそのような問題が生じるわけです。ある程度カリキュラムを生かせれば、実施しながら反省できるわけです。こういう事は解消されていく、でもこれは問題としてまだ残るね、といった学習カリキュラムを作っていく上での試行錯誤</p>

<p>平塚教育長</p>	<p>を早めにやっつけていけばいいのかなと思います。現在、少しずつ着実に進んでいるようですが、平成32年度から学習カリキュラムを実施するとは言わないで、その前に試行錯誤を繰り返しながら、ギャップが取れていけばいいのかなと思いますし、中期の良さがもっと見えたらいいなと思います。</p> <p>ありがとうございました。試行を早めにとということで、今年度から城ノ内中学校と、長山中学校において試行研究ということで行っております。テーマ等につきましては、地域の実態に応じてテーマを設定するという意味で、城ノ内中学校区はキャリア教育について、早速、小中一貫教育のカリキュラムの策定に向けて着手しております。長山中学校区は地域の実情もごさいます。</p> <p>長山中学校区は、心の教育というものを非常に重点的に取り組んでいる地区でもごさいます。そういう部分の小中一貫ということで、小中の接続の部分をどうしていくかというのが大きなテーマでございしますので、そのためには色々な教材や題材、資材そういった配列を、どの学年にどこに位置付けて行くかだと思います。まだ教科の領域には入ってないですが、やがては教科の領域に入るような研究をしていきます。ちなみに来年は、ICT関係で新しい指定研究を始める中学校も出てくるかと思ひます。ご指摘のとおり、やはり少しずつ早め早めに行っていきたいと考えておりますが、残念ながら私たちは教育委員会全体での基本方針、カリキュラムの基本系がまだお示しできていないので、その他の成功研究の成果を生かしながら、私たちも早めにそういったものをお示ししていくように策定をしていきたいと思ひております。ありがとうございました。</p>
<p>中山市長</p>	<p>他にございませうか。学区の見直し等も入るといふことで、これから具体的な話になってくると思ひますが、その中で、皆さんの不安を払拭できるような魅力的な教育のあり方を示す事ができたらいいなといふことで、これまで新しい学校づくり審議会の中でも進められてきたのだらうと思ひます。現在、このような形でご議論をいただいたところでごさいます。例えば、龍の子人づくり学習において人づくりといふのは本当に大切なことだすし、龍ヶ崎市としても、これから力を入れていかなければならないと思ひております。龍の子人づくり学習自体、素晴らしいものだと思ひますが、何か少し市民にPRするのは少しインパクトに欠けるかなと思ひますので、もっと市民にPRするためにインパクトを与えられるようなことはないかなと感じました。</p> <p>ある意味、市の教育委員会も含めて市のやる気度が、市民に伝わるようなものであるといふのかなと思ひます。</p> <p>そんな中で、市のやる気度を示していくのであれば、今、この図を見ながら実行していかなければといふ考えではいませうが、市としても市全体としての人づくりのあり方、学校だけではなくて、生涯学習のうえであったり、スポーツであったり、地域活動の面であったり、子どもたちだけではなく人づくりプロジェクト的なものを立ち上げていくといふのも一つの方法なかなと思ひます。</p> <p>一貫性のある龍ヶ崎市の人づくりを示していく中で、教育の部分ではこれだけ真剣に取り組んでいきますといふ訴え方もあるのかなと思ひます。これは提案でございませうので、皆さんからアイデアをいただければと思ひます。また、市の本気度を示せる何かインパクトのある訴求力のある訴え方について、執行部の方で検討していただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>今の話についてでも結構だすので、何か他にございませうか。</p>
<p>教育総務課</p>	<p>ただいま、市長からお話があった件だす。基本方針のメインとしては、人づくりといふことでありますので、学習カリキュラムをきちんとしていきま</p>

